利尻研究 Rishiri Studies (38): 59-60, March 2019

礼文島産キタクロミノガの記録

工藤広悦

〒121-0061　東京都足立区花畑 3-12-15　日本蛾類学会会員

Record of *Canephora pungelerii* (Heylaerts, 1900) from Rebun Island, Northern Hokkaido

Koetsu Kudo

A member of Japan Heterocerit's Society, 3-12-15, Hanahata, Adachi-ku, Tokyo, 121-0061 Japan

Key words: Psychidae, *Canephora pungelerii* (Heylaerts), Diagnosis

キタクロミノガ（ミノガ科）を礼文島から初めて報告する．利尻島からは，既に佐藤・楠井（2014）により本種の記録があるが，これまで礼文島からの記録がなかった．標本は 2016 年 5 月 30 日に礼文島香深にて採集された蓑から羽化したオス 1 個体(6 月 16 日羽化）と，メスの蓑と蛹殻であり，これらから得られた形態的特徴を以下に記す．なお，標本は筆者が保管する．

Canephora 属は特徴の 1 つとして，オスの前脚前脛節に長い葉状片を持つ（図 1)．鱗片（図 2）の多くは笹状の細長い形を呈し，先端縁に 1 個の欠刻を持つものもある．幅広い桜の花びらの形の鱗片類を持たないのが本種の特徴である．オス交尾器（図 3，4）では，Tegumen は先端に行くほどやや細まるが，長く大きい．頂端は 2 裂しない．Valva の厚く長い Ampulla (dorsal process) の先端部は細まる．Harpe (ventral process) は，先端部がやや広がり手首状となり，先端には 4 つほどの突起を持つ．Saccus は長く大きく，Aedeagus は太い．

蛹殻の全体観は，シバミノガ *Nipponopsyche fuscescens* Yazaki, 1926 の蛹に似る．色はオス標本では淡褐色（琥珀色)，メス標本では薄い琥珀色であった．オス標本（図 5 ～ 7）では，大腮，下唇鬚が明瞭であり，頭頂は平滑なシバミノガと異なりやや鈍頭となり，下唇鬚も長形となる．前脚先端は触角の先端上に達しない．前脚は左右接せず，後翅がその間にあり更に後翅がわずかに現れる．腹部背面には，縮緬状横皺が顕著に現れる．背面前縁の鋸歯状突起列は第 4 ～ 8 節にあり，第 8 節の歯は大

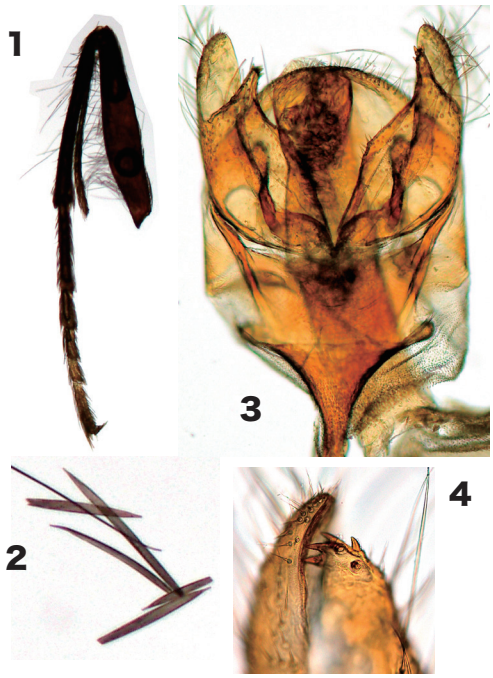

図 1-4．キタクロミノガ (♂)．1．前脚前脛節の葉状片，2．前翅中央部の鱗片, 3. 交尾器(全体図), 4. 交尾器(Valva 先端部)．

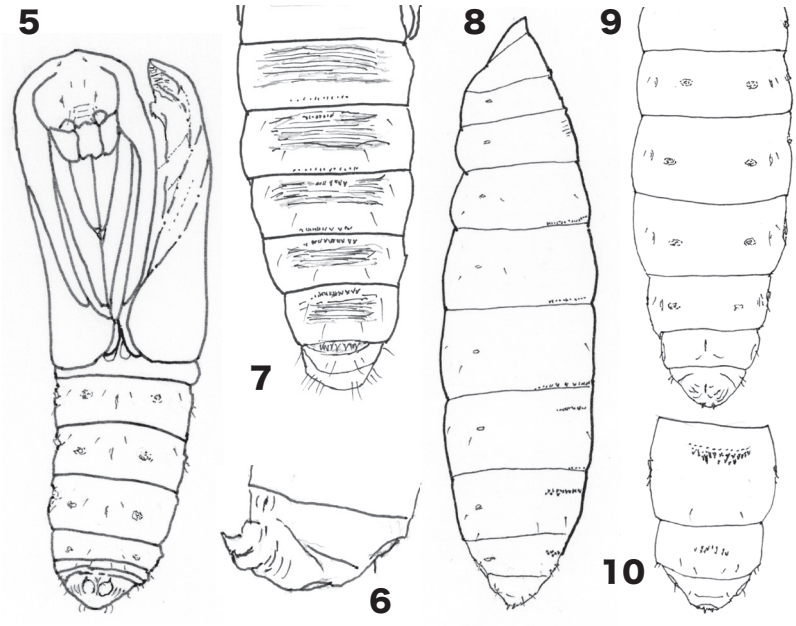

図 5-10．キタクロミノガの蛹殻．5．前面（♂），6．尾端側面（♂），7．背面（♂），8．側面（♀），9．前面（♀），10．末端背面（♀）．

きい．後縁の小突起列は第３～５節が顕著である．1 対の尾突起は鍵爪で前面にやや突き出る．メス標本（図８～10）では，頭部諸器官は離脱のため形状は不明瞭であった．腹部背面前縁の突起列は，第６～８節が顕著である．背面後縁の突起列は第３～６節にあり，第６節では痕跡的となる．1 対の尾突起は尖鋭で小さい．

蓑は長さ 23mm 前後で，円筒形で細長い．その表面は，イネ科草本類の葉や茎が様々な長さで細く縦に綴られている．蓑の前半部では主に長い破片が，後半部は小細片で綴られている．これらの特徴は，日本産ミノガ類の中ではシバミノガに近い．

参考文献

三枝豊平・杉本美華，2013．ミノガ科．広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田康則（編），蛾類標準図鑑３: 136-155．学研教育出版社．東京．

Saigusa, T. & M. Sugimoto, 2014. Japanese species of the Genus *Proutia* Tutt, (Lepidoptera; Psychidae). *Zootaxa*, 3869 (2): 143-152.

佐藤雅彦・楠祐一，2014．利尻産ミノガ科およびヒゲナガ科の記録 . 利尻研究，(33): 15-16.

杉本美華, 2009. 日本産ミノガ科のミノの形態 (2). 昆蟲 (ニューシリーズ)，12(1): 17-29.

矢野宏二 , 1958. 近畿のミノガ科の研究 . 大阪府立大学農学部昆虫学教室出版，(4): 25-39.